

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年通信 88号 通算 152号

2016.12.20 (火) 発行

俺のキャリア研

副担任 コージロー

今回のキャリア研修で、私は京都・奈良方面を訪れるのは人生で2回目だった。



初めて訪れたのは、2年前に旧・楯岡高校（現・東桜学館高校）で、運よく2学年副担となり、ちゃっかり学年団の一員として同行した時だった。講師経験3年、教諭としては1年目で教員人生は未だ4年目だが、我ながら強運で、もうすでに2回も京都・奈良方面の引率をしていることになる。生徒と山形を離れ、普段できない体験を一緒にするというのはこの職業の特権だろう。あまり意識はしていないが、私が教員になろうと思ったきっかけもここにあるのかもしれない。私も高校時代修学旅行に行っていないので痛いほど気持ちがわかるが、興譲館OB・OGの皆様もみんなの様子を学年通信や興譲館便りで知れば、きつとうらやましがらはずだ。当然、このキャリア研修の最大の目的は企業研修・京都大学訪問で、観光ではない。しかし、さすがは興譲館2学年生徒たち。「やることはやって、楽しむときはおもいっきり楽しむ。」学年主任の横山先生の背中を見てきただけはあるな…私はひそかに感心していた。企業研修では真剣な目つきでうなずきながらメモを取る姿は大変立派で、京都・大阪での自主研修は節度そして時間をしっかり守りホテルまで笑顔（もしくは満喫したがゆえの疲れた顔）で戻ってきていた。この体験は職業観だけでなく日本という国の見方やあるいは世界の見方を「良い意味で」大きく変えてくれたに違いない。ひよっとすると何人かの生徒は間接的に山形、米沢の良さにも気づいたかもしれない。

さて、ここからは生徒の巡回コース確認を紹介しようと思う。職員は各班の生徒が訪れている場所と時間を見て、様子を見に行くことになるわけだが、ある程度どこをどのように巡回するかは教員の裁量に任されている。まずは、今回のパトロールコースを説明する前に、なぜこのコースになったのか前回の旅行を説明しなければいけない。2年前回ったコースは、法隆寺・奈良公園（大仏殿・国宝館含む）・薬師寺・平等院・金閣・嵐山（天龍寺等含む）・龍安寺・伏見稲荷・京都御所という観光ならなかなかの「京都・奈良満喫コース」だった。しかし、お気づきだろう…定番中の定番の清水がなかったのだ。夢にまで憧れた古都。それを代表する名所を逃したことは私の中で大きかった。

しかし、自主研修の午前中は、2年前に（個人的に）がっかりしてしまった平等院で担当として待機することになった。2年前、平等院の鳳凰堂は塗り替えられたばかりで、朱色が目に痛いほど鮮やかで、逆にそれがチープな感じに見えた。私は「なんか違う」感じずにいらなかった。しかし、2年の時を経て、改めて見に行くと（光の加減かもしれないが）色が渋くなり、私のイメージと見事に一致する色彩になっていた。私はそこで2年越しによりやく鳳凰堂のすばらしさに感動を覚えた。これも今回の引率の私の幸運の一つだろう。あえて、ここでは平等院の写真を載せないでおく。実際写真にその感動を収めきれなかったと思う。やはり、実物を見に行くのが一番なのだ。

午後のパトロールコースは、多くの班が午後のコースに入れていたので清水寺とその途中の八坂神社を訪れた。清水道では多くの班がお土産を探しているお土産屋に立ち寄っていた。舞台の方まで行くと、某三組・四組の女子班と遭遇し、しばらく行動を共にした。地主神社で恋御くじを引いて一喜一憂する姿は、やはり女の子だなと感じた。そして『良い男性と出会えるといいね。』と親御さんの代わりに心の中で祈願した私であった。（パノラマ写真をご覧ください。）



その後、午後の遅めの時間に一つの班だけがコースに入れていた清明神社に行くことにした。この神社は、私が中学校の時にはまった夢枕獏の『陰陽師』のモデルになった安部清明を祭る神社だ。私はせっかくなのでこの機会に生徒の様子を見るついでにお守りなどを買った。安部清明のご利益を信じ、片桐先生には不幸がこれ以上ふりかからないよう厄除け（ブラック）、伊藤先生には邪悪なものから救ってくれるようお守り（ホワイト）を買った。私より若い二人が幸せでありますように。と、そこへ三組の某班がやってきた。ある班員の強い要望で羽生結弦の祈願絵馬を見に来たそう。確かに有名人の絵馬が多くかけられているのを見て私も驚いていた。実はこの班は、私と別れた後に班員の一人が京都で財布を無くしてしまい、遅れて最後に帰ってきた班でもあった。しかし、幸運なことに清明神社の御利益か、ダメ元で訪ねた交番に入っていたお金そのままに財布が届けられていたそう。これはきっと清明神社の起こしたミラクルに違いない。京都を訪れる時はぜひ薦めたいスポットになった。片桐先生と伊藤先生へのお土産のご利益もきっと二人を守ってくれるに違いないと確信した。と同時に自分や家族にも買えばよかったと後悔した。そして、その班の他の班員たちがギリギリまで、その財布を無くしてしまった生徒の為に一緒に財布を探してくれたという興譲館生の優しさにも感動した。

京都（や奈良）を一言で表現することは不可能だと思うが、神社仏閣や仏像などを生徒と一緒に見てこれほどの文化を作り上げたのは、そういったものを作ろうとした人、あるいは実際にそれを作った職人の『強い思い』だと改めて感じた。それは信仰、信念といったものかもしれないが、自主研修で財布を無くしてしまった生徒の班の班員の行動を含めて、人を感動させるのは、人の行動とその人を突き動かす心にあると感じた。私にとって、古都そして興譲館生のすばらしさに感動を覚えたキャリア研修になった。

長文になってしまいすみません。横山先生編集作業いつもありがとうございます。

関西キャリア研修終わり！

皆さんこんにちは。関西キャリア研修しおり担当の川原吹です。私からは、今回感じた2つのことを書きたいと思います。

1つ目の話をするために、少し昔話をしますね。興譲館にきた6年前の夏、カンボジアに行ってきました。ちょっとくらい親孝行するかなと思って母親と2人旅に出かけたのです。まあ、その内容は割愛します（かなりの母娘(おやこ)けんかしてました…）なぜカンボジアだったかという、プロジェクトXでアンコールワットの修復に関わった日本人の石工職人に感動したこと、また、内戦がひどく多くの難民を出したカンボジアの復興を見てみたかったからです。ガイドさんに案内してもらい（日本語が上手い。しかも格好良かった！）、実際に見たアンコールワットは、本当に感動しました。世界史の資料集で見たそのままです。昔のカンボジアの人々が、どれだけの思いを持ってこの遺跡を作ったのかと思うと、壁面を触る手が震えました。しかし、内戦の傷跡は深く、素晴らしい壁画や仏像に銃弾の傷跡が残っていました。それを非常に残念に思いましたが、案内をしてくれたガイドさんや修復の内容を話してくれた人、なによりオールドマーケットの売り場の女の子が「アンコールワットを見た？すごいでしょ？」といていたのが印象的でした（これまた日本語が上手い！）。巧みな値段交渉を楽しみつつ、自国の文化を誇らしげに語る彼女の姿を見て、外見だけでない確かなカンボジアの復興を感じました。

前置きが長くなりましたが、こんな旅行をいくつか続けて、自国の文化を誇らしげに語る現地の人々を見るたびに、自分の文化を知りそれに誇りが持てることはとても大事なのではないかと考えるようになりました。今回の関西キャリア研修をするにあたって、東大寺や興福寺、金閣寺や銀閣寺、三十三間堂など、実際に見て触れてみなければ分からないその感覚を、ぜひ皆さんに感じてもらいたいと思いました。そして、この先世界で活躍する時に、自分の文化だけではなく、他国の文化も尊重できる人として成長して下さい。たとえ、「奈良公園の鹿が可愛かった！」（あれ？）とか、「宇治抹茶がおいしかった」（あれあれ？）であったとしても！！

2つ目は、やっぱり「興譲の精神」です。今回のキャリア研修は、本当に金銭的に苦しかった。何とか大阪方面にいけるように横山先生はじめ学年の先生方でやり繰りをしました。それでもお金がかかるものは、かかります。切り詰めるころはもうないほどだったので、同窓生と語る会を計画した時、どこから謝金を出そうかと頭を抱えました。しかし、宍戸さんも川合さんも、「謝金はいらないので、その分を後輩達のために使ってください」と仰って下さいました。来て講演をしていただくだけでも、ご自分の時間を割いて下さったはずです。それでも後輩達のために、とって下さったお二人の先輩方を見て「興譲の精神」を感じました。私たちは生きていく中で、いろいろな考え方に触れて、自分の進むべき道を決めていくわけですが、その中で普遍的な価値を持つ考え方に出会い、それを指針に生きていくことはなかなか難しいことです。興譲館ではその指針をすでに高校時代に教えているのです。校歌の意味を深く考えるのは、きっと10年後か20年後か、もっと先の話でしょう。今は他の人からたくさん与えられて生きているでしょ

2組担任 川原吹いつみ



うが、いつかその先の時代で皆さんの後輩達に（興譲館の後輩というだけでなく）返して行って下さい。

ということで、いろいろ書きたいことはありますが、何か皆さんの中で1つでも「良かった！」と思えることが思い出として残ってくれば幸いです。きっと何年後か関西に行った時に、この2016年の関西キャリア研修をぜひ思い出して下さい。

これで教員レポートも終了！と思ったら、Y山自身が書いていないことに気がついた。あっ！K教頭先生もか？